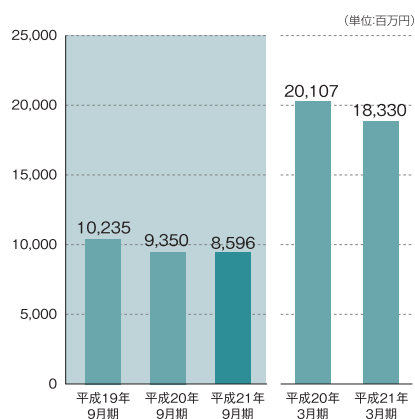


業績のハイライト(個別)

The highlight of achievements

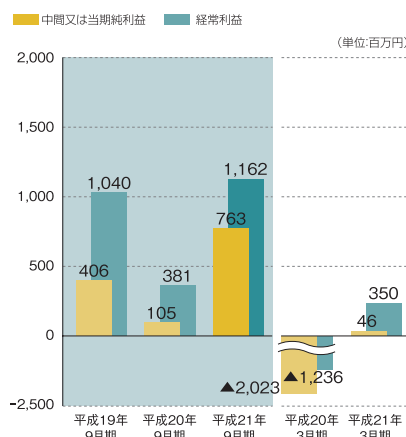
経常収益

経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことなどから、85億96百万円(前年同期比8.0%減)となりました。



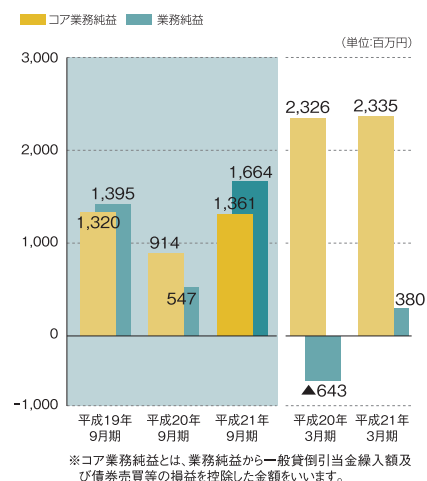
経常利益・中間純利益

経常利益は、コア業務純益が増加したこと、さらには金融市場が緩やかに回復し有価証券の減損処理が発生しなかったことなどから、11億62百万円(前年同期比205.0%増)、中間純利益は7億63百万円(前年同期比621.1%増)となりました。



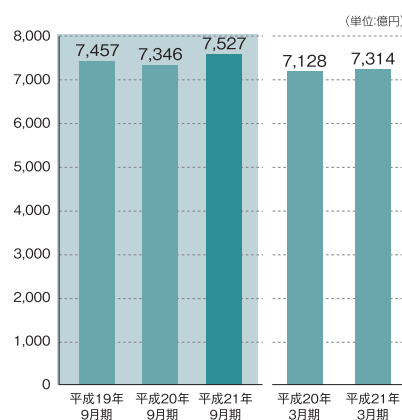
業務純益・コア業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益と役員取引等利益が減少したものの、金融派生商品(金利仕組みローン等)の評価損益が改善し、経費も減少したことなどから、13億61百万円(前年同期比48.7%増)となりました。



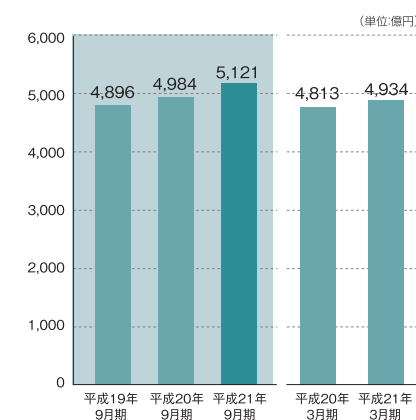
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金をはじめ、公金預金などが堅調に推移したことなどから、7,527億54百万円(平成21年3月比212億80百万円増)となりました。



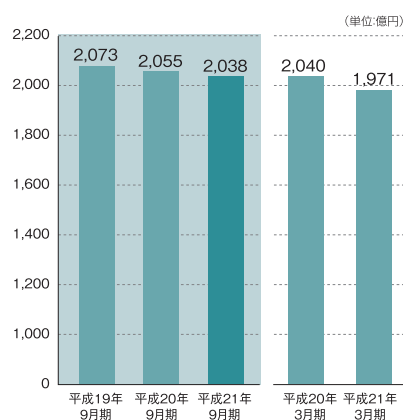
貸出金残高

貸出金残高は、地域経済の低迷により借入れ需要が低下したことなどから、中小企業向け貸出が減少したものの、地方公共団体向け貸出が堅調に推移したことなどから、5,121億46百万円(平成21年3月比186億50百万円増)となりました。



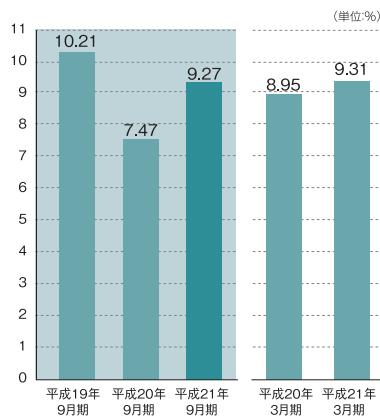
有価証券残高

有価証券残高は、2,038億79百万円(平成21年3月比67億円増)となりました。



単体自己資本比率(国内基準)

単体自己資本比率(国内基準)は、平成21年3月比0.04ポイント低下し、9.27%となりました。



格付

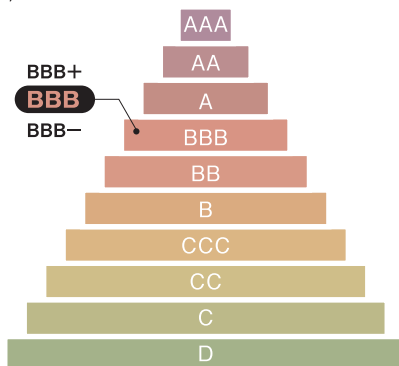
当行では、第三者による評価をとおして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しております。

格付機関
株式会社日本格付研究所(JCR)

格付種類
長期優先債務格付

格付
BBB(トリプルBフラット)

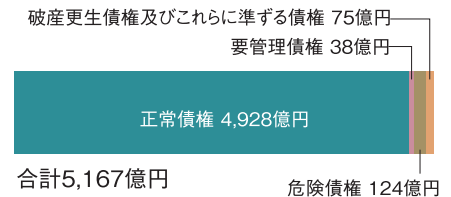
見通し
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権(貸出金・支払承諾見返等)のうち、正常債権以外の債権額は、239億8百万円(前年同月比22億54百万円減)となりました。

金融再生法に基づく開示債権額(平成21年9月末現在)



金融再生法開示債権の保全内訳

(平成21年9月末現在、単位:百万円)

	債権額(A)	保全額(B)	保全内訳		保全率(B/A)
			担保・保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,567	7,567	5,201	2,365	100.00%
危険債権	12,460	11,733	10,684	1,048	94.16%
要管理債権	3,880	2,078	1,595	483	53.55%
正常債権	492,843	261,703	260,804	899	53.10%
合計	516,751	283,081	278,285	4,795	54.78%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

